

< あなたの治療について >

血内-fludarabine 単剤療法-リンパ腫-q4w

今回の治療は、fludarabine 単剤療法という治療法で、フルダラ（FLU）という注射薬で治療を行います。腫瘍の増殖を抑えるお薬です。

治療全体の流れ

今回の化学療法は4週間が1コースとなっています。各コースの1～5日目に点滴を行います。この治療を4週間（28日間）ごとに繰り返します。副作用が強く出たり、体調がすぐれない場合は回復するまで、治療を延期したり、お薬の量を減らしたりすることがあります。

1コース分の治療スケジュール

順序	薬剤商品名 (薬の作用)	投与	1～5日目	6～28日目
	グラニセトロン (吐き気止め)	点滴 約30分		お休み
	フルダラ (抗がん剤) 25mg/m ²	点滴 約30分		

点滴中や点滴後に、注射部位が痛い、赤くなってはれる、水ぶくれができる、ただれるなどの症状に気づいたときは、すぐに申し出てください。また点滴中は、腕を動かすことにより針がずれ、点滴漏れが生ずることがありますので気をつけて下さい。

起こりやすい副作用について（頻度20%以上）

フルダラについて

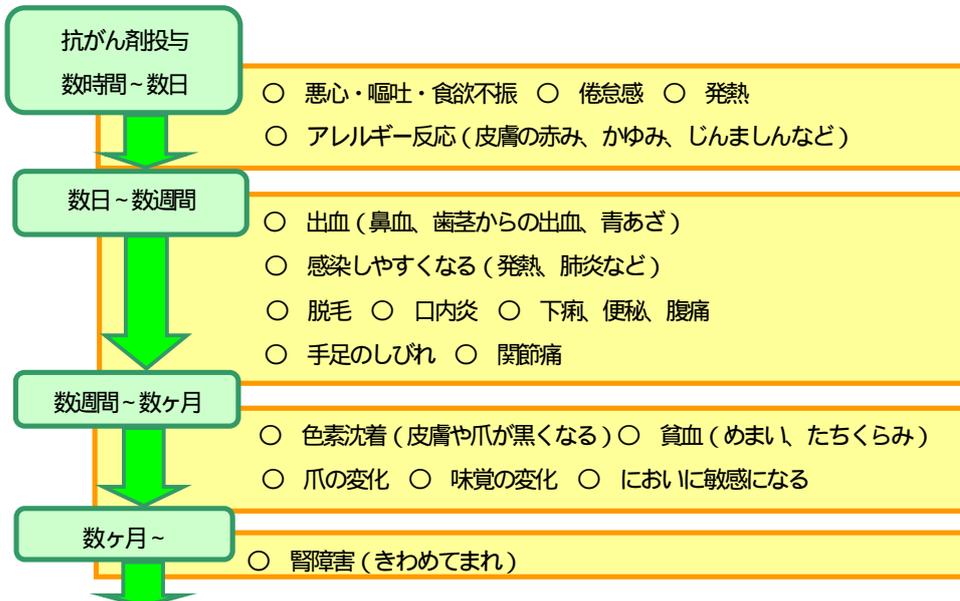
好中球減少、血小板減少、ヘモグロビン減少、赤血球減少 発熱、

副作用の発現時期の目安

*この図は、今回用いられている抗がん剤による副作用だけでなく、他の抗がん剤によって起こる副作用も含まれています。

これらの副作用がすべてあらわれるわけではありません。

また、発現する時期や程度も抗がん剤の種類や患者さんの体質により個人差があります。



副作用の対策について

吐き気・嘔吐，下痢と便秘，口内炎，感染症，出血，貧血，脱毛などの副作用の対策について知りたい方は、資料をお渡しすることができますのでお申し出下さい。

**薬品毎の副作用について（添付文書における重大な副作用を製薬会社作成「薬のしおり」などから抜粋）
まれな副作用ですが、このような症状が現れた際には医師・薬剤師・看護師へご相談下さい。**

【フルダラ】

<骨髄抑制> 発熱、息切れ、あおあざ

<間質性肺炎>呼吸困難、咳、発熱

<重症日和見感染> 風邪症状（寒気・発熱・咳・たん）、筋肉痛、呼吸困難

<出血性膀胱炎>血尿、排尿痛、残尿感

<皮膚粘膜眼症候群、中毒性表皮壊死症> 発熱、口腔粘膜の発疹、口内炎

上記のほかにも副作用が現れることがあります。

他にもからだの異常を感じたら、主治医や薬剤師、看護師に相談してください。